

## 迪慶州瀾滄江流域カムチベット語 (徳欽／雲嶺／燕門／巴迪方言)の方言特徴

鈴木博之

### 1 はじめに

本稿では、雲南省迪慶藏族自治州西部を南北に貫流する瀾滄江の流域で話されるカムチベット語方言数種を対照しつつ、同地域のチベット語方言の特徴を考察する。

#### 1.1 議論の背景

迪慶州のチベット語は、カムチベット語の中で独立した下位方言群に分類できるとされ(瞿靄堂・金效静(1981)、張済川(1993))、代表する方言に rGyalthang (香格里拉県建塘鎮古城)方言をあげることができるという(陸紹尊 1990, 1992)。同地域の方言について、rGyalthang (古城内)方言の記述は複数提出されている(陸紹尊(1990)や Hongladarom (1996)、Wang (1996)、《中甸県誌》(1997:147-153)、《雲南省誌》(1998:421-441)、蘇郎甲楚(2007)など)が、それ以外の方言のまとまった記述は未提出である。

筆者は同地域の方言として、rGyalthang (古城外)方言を含む4種類の方言の音声分析を提出した(鈴木 2007a)が、これらの方言の音的特徴は極めて多様で、rGyalthang 方言によって代表される性格のものではない。それゆえ筆者は鈴木(2006)において、迪慶州のチベット語を3種にさらに下位区分できるとして、Sems-kyi-nyila (香格里拉)方言群、nJol (徳欽)方言群、Melung (塔城)方言群に分類した。これらは順に雲嶺山脈を中心として東、西、南に位置する地域で話される方言に相当する。

本稿では、雲嶺山脈西部に流れる瀾滄江の流域に位置する村で話される nJol 方言群に分類できる複数の方言を対比的に扱うこととする。上述3方言群の方言比較は扱わない。

#### 1.2 本稿で用いる言語資料

ここで用いる方言資料は5種類である。北から順に、徳欽県升平鎮阿墩子 [’Jol] の nJol 方言 (nJ)、徳欽県雲嶺 [Lung-gling] 郷佳碧村の Yungling 方言 (Yu)、徳欽県燕門郷谷扎村の Yanmen 方言 (Ya)、維西県巴迪 [dBugs-sdod] 郷結義村の Budy (結義) 方言 (BuJ) および同郷羅通村の Budy (羅通) 方言 (BuL) である。( )内の表記は、以下の議論で用いる略称である。

各種方言資料は、筆者自身の調査によって得たものを用いる。調査協力者はそれぞれ、(nJ): ツェリ・ドカ [Tshe-ring sGrol-dkar] さんおよび和延慶さん、(Yu): ナンセー・ドマ [gNam-gsal

sGrol-ma)さん、(Ya)：ペマ・チュドウン [Pad-ma Chos-sgron] さん、(BuJ)：アチェン・チュンツォ [A-chen Chos-mtsho] さんおよびアヨンマ [A-dbyangs-ma] さん、(BuL)：ヤンツォ・ドマ [dByangs-mtsho sGrol-ma] さんである。調査は2005年から2007年にかけて各郷および昆明市で行った。

## 2 音体系の素描

各種方言ともそれぞれの音素体系は似通っているが、若干異なりもある。ここでは、Yungling 方言の例を掲げる。

【音節構造】最大で  $^cC_iGVC$ 、初頭子音が鼻音のとき  $CCVC$  もある。

【声調】語声調で、ˉ：高平、ˊ：上昇、ˋ：下降、ˆ：上昇下降の4種。

【母音】各要素に対応する長母音・鼻母音が存在する。

i	u	ɯ	u
e	ə	ə	ɤ
ɛ		ɔ	
a		a	

【子音】子音連続に現れるものも含めた一覧、子音連続は主として前鼻音と前気音がある。

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	声門
閉鎖音	無声有気	p <sup>h</sup>	t <sup>h</sup>	t̪ <sup>h</sup>		k <sup>h</sup>	
	無気	p	t	t̪		k	ʔ
	有声	b	d	d̪		g	
破擦音	無声有気		ts <sup>h</sup>		tʃ <sup>h</sup>		
	無気		ts		tʃ		
	有声		dz		dʒ		
摩擦音	無声有気		s <sup>h</sup>	ʃ <sup>h</sup>	ç <sup>h</sup> , ʧ <sup>h</sup>	x <sup>h</sup>	
	無気	ɸ	s	ʃ	ç, ʧ	x	h
	有声		z	ʒ	ʒ	ɣ	fi
鼻音	有声	m	n	ɳ	ɳ	ŋ	
	無声	m̥	n̥		ɳ̥	ŋ̥	
流音	有声		l	r			
	無声		l̥				
半母音		w			j		

特に方言間の大きな異なりとして、Budy (結義) 方言には口蓋垂閉鎖音 q<sup>h</sup>, q やそり舌破擦音 tʃ<sup>h</sup>, tʃ, dʒ, 両唇閉鎖音を第1要素とする子音連続が見られる、などの点を指摘できる。

なお、鈴木(2007a:191-202)に Yungling 方言と Budy 方言の音体系と具体例が示されている。

### 3 方言特徴の具体例

方言特徴を分析するために、蔵文との音対応と語彙形式について、分けて述べる。

#### 3.1 蔵文との音対応

蔵文と口語との音対応を探る作業は、口語の発展を分析する重要な手段である。迪慶州瀾滄江流域のカムチベット語には、よく知られるチベット語方言には見られないいくつかの特徴がある。

##### 3.1.1 蔵文 l と蔵文 y をめぐって

最も目を引く対応関係は蔵文 l : 口語形式 /j/ と蔵文 y : 口語形式 /ɣ/ という 2 つの対応である。ただし、以下に具体例を示すように、全ての方言がこの対応関係を見せるわけではない。

蔵文 l (基字および足字) の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
年	ʼɿ	ʼju	ʼju	ʼlo	ʼlo	lo
牛	ʼlɔ̃	ʼjō	ʼjō	ʼ <sup>h</sup> lɔ̃:	ʼ <sup>h</sup> lɔ̃	glang
風	ʼ <sup>h</sup> jō pje	ʼ <sup>h</sup> lō:	ʼjō ma	ʼ <sup>w</sup> lo ma	ʼ <sup>w</sup> lo ma	rlung
月	ʼ <sup>n</sup> la wa	ʼ <sup>n</sup> la wa	ʼji ga	ʼlə ka	ʼ <sup>n</sup> la wa / ʼlə ka	zla ba / zla dkar
靴	ʼç <sup>h</sup> ɔ̃	ʼçā	ʼçā	ʼḷā	ʼḷā	lham
簡単な	ʼli ɿa	ʼje? ça	ʼne ʼɿa	ʼle ɿa	ʼle: ba	sla po

蔵文 l : 口語形式 /j/ の無声音の場合の口語対応形式には /ç/ が当たる。また、全ての蔵文 l を含む語が 1 方言内で必ずしも決まった音対応を見せるわけではないし、方言間である語に対する口語形式が一致するわけでもない。

蔵文 y の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
字/本	ʼzə ɣɿ	ʼzi ɣɿ	ʼji ɣe	ʼji ɣə	ʼje <sup>h</sup> ge	yi ge
ヤク	ʼza?	ʼja? / ʼza?	—	ʼja?	ʼ <sup>h</sup> ja?	g.yag
花椒	ʼju ma:	ʼzā wo	ʼze: wō	ʼ <sup>h</sup> je: <sup>h</sup> ma	ʼ <sup>h</sup> ju: ma	g.yer ma

これもまた、1 方言内で必ずしも決まった音対応を見せるわけでもなく、方言間である語に対する口語形式が一致するわけでもない。

### 3.1.2 蔵文足字 y, r および蔵文 c/ch/j/sh/zh をめぐって

次に、蔵文足字 y, r の対応形式を取り上げる。これは口語形式として蔵文足字 y, r が基字とともに音変化を起こし、その結果調音点の異なる破擦音や摩擦音が成立させていることが大半で、これらの口語形式と蔵文に基字としてもともと存在する c, ch, j, sh, zh などの口語対応形式とどのように合流しているかが方言差異を分析する手がかりになるということが、西田 (1987) などに指摘されていることによる。

蔵文 Ky の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
あなた	ʔtɕʰuʔ	ʔtɕʰuʔ	ʔtɕʰuʔ	ʔtɕʰuʔ	ʔtɕʰeʔ	<i>khyod</i>
漢族	ʔdʒa	ʔdʒa	ʔdʒa	ʔdʒa	ʔdʒa	<i>rgya</i>

いずれの方言でも基本的に前部硬口蓋破擦音に対応する。

このうち蔵文 sky- について /ç/ が対応する方言がある。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
酸っぱい	ʔtɕue pa	ʔtɕue pa	ʔhɕe: pa	ʔtɕue pa	ʔtɕe: ɕaʔ	<i>skyur po</i>
幸せな	ʔciʔ po	ʔɕuʔ pu	—	ʔciʔ po	—	<i>skyid po</i>

蔵文 Py の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
裕福な	ʔɕʰoʔ kɤ	ʔɕo: ko	ʔtɕʰo ʔkʰu	ʔhɕoʔ ko	ʔhɕo: ko	<i>phyug po</i>
鶏	ʔɕa	ʔɕa	ʔɕa	ʔɕa	ʔɕa	<i>bya</i>
狼	ʔɕõ kʰu	ʔɕõ ʔgɤ	ʔɕõ kʰu	ʔɕõ kʰu	ʔɕõ kʰu	<i>spyang khu</i>
暖季	ʔja kʰa	ʔza xa	ʔzɛ: kʰa	—	ʔzɛ: kʰa	<i>dbyar kha</i>

いずれの方言でも基本的に前部硬口蓋破擦音に対応する。Yanmen 方言の「裕福な」の例は例外的対応かもしくはそもそも蔵文 *phyug po* の対応形式ではない可能性もある。

蔵文 Kr の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
血	ʔtɕʰaʔ	ʔtʰaʔ	ʔtaʔ	ʔtɕʰaʔ	ʔtɕʰaʔ	<i>khrag</i>
ナイフ	ʔtɕə tɕõ	ʔtə tɕʰõ	—	ʔtə pe	ʔtɕə tɕʰõ	<i>gri chung</i>
髪	ʔtɕa: pɤ	ʔta	ʔta:	ʔta	ʔtɕa	<i>skra</i>

いずれの方言でも基本的にそり舌音に対応する。閉鎖音か破擦音かは方言によって異なるが、両者をもつ Budy (結義) 方言ではどちらが現れるかは語ごとに異なる。

蔵文 Pr の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
がけ/岩	ʔtʂaʔ	ʔta: ɲẽ	ʔtaʔ gu	ʔta: ʔgo	—	<i>brag</i>
雲	ˀtʂẽ	ˀtʂ	ˀtʂj	ˀtʂẽj	ˀtʂe	<i>sprin</i>
蛇	ˀɲdʂaʔ	ˀɲdʂaʔ	ˀɲdʂ	ˀɲdʂ	ˀɲdʂ	<i>sbrul</i>

蔵文 Kr の対応形式と同様に、いずれの方言でも基本的にそり舌音に対応する。

蔵文 c/ch/j の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
水	ˀtʂʰu	ˀtʂʰu	ˀtʂʰu	ˀtʂʰu	ˀtʂʰu	<i>chu</i>
大きい	ʔtʂʰɤ wu	ʔtʂʰa wu	ʔtʂʰə ɣwo	ʔtʂʰe bo	ʔtʂʰə ʰbɤ	<i>che po</i>
茶	ʔtʂa	ʔtʂa	ʔtʂa	ʔtʂa	ʔtʂa	<i>ja</i>

いずれの方言でも基本的に前部硬口蓋破擦音に対応する。Budy (結義) 方言ではそり舌音破擦音に対応する例もある。

蔵文 sh/zh の対応形式

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
肉	ˀʂʰa	ˀʂʰa	ˀʂʰa	ˀʂʰa	ˀʂʰa	<i>sha</i>
木	ˀʂʰɪ pʰõ	ˀʂʰɪ pʰõ	ˀʂʰɪ pʰõ	ʔʂʰu pʰü	ˀʂʰɪ pʰõ	<i>shing phung</i>
帽子	ʔʂu wa	ʔʂu wa	ʔʂə wa	ʔʂwa	ʔʂwa:	<i>zhwa</i>
4	ˀzə	ˀɲzə	ˀzə	ˀzəwə	ˀɲzə	<i>bzhi</i>

いずれの方言でも基本的にそり舌音摩擦音に対応する。語によっては前部硬口蓋摩擦音に対応する例もある。

以上の特徴について、確かに蔵文との音韻対応が見て取れるが、対応関係が異なる例も少なくなく、本来的な対応関係と借用語など非本来語の対応関係とが混合している可能性に注意が必要だろう。

対応関係のうち代表的な口語形式をまとめると、以下ようになる。

tʂ (前部硬口蓋破擦音を代表)、ʂ (前部硬口蓋摩擦音を代表)、t (そり舌閉鎖音を代表)、tʂ (そり舌破擦音を代表)、ʂ (そり舌摩擦音を代表)

蔵文形式	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL
Ky	tʂ	tʂ	tʂ	tʂ	tʂ
ただし sky	tʂ/ʂ	tʂ/ʂ		tʂ/ʂ	
Py	ʂ	ʂ	ʂ	ʂ	ʂ
Kr	tʂ	t	t	t/tʂ	t/tʂ
Pr	tʂ	t	t	t/tʂ	t/tʂ
c/ch/j	tʂ	tʂ	tʂ	tʂ/tʂ	tʂ
sh/zh	ʂ	ʂ/ʂ	ʂ/ʂ	ʂ/ʂ	ʂ/ʂ

以上のことから、瀾滄江流域のチベット語方言が体系的に大きな異なりがあるというのは難しいことが分かる。Budy（結義）方言の蔵文 c/ch/j に前部硬口蓋破擦音とそり舌破擦音の両方が対応しうることが他と若干異なる事例であるといえる。また蔵文 Ky の中で sky が摩擦音になる方言とそうでない方言に分かれているのも異なる。

さて、以上で触れなかった蔵文足字 r を含む形式に sr-がある。この各方言の対応は、以下のように基本的に足字 r の脱落と分析できるが、前気音の有無などの点で異なりがある。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
命	ʰsuʔ	—	ʰsoʔ	—	—	<i>srog</i>
豆	—	—	ʰse: wā	ʰhe: me	—	<i>sran ma</i>
薄い	ʰsow ʰsowʔ	ʰsə sɔʔ	ʰsə sʰɔw	ʰsʰə sʰɔʔ	ʰsə sɔʔ	<i>srab srab</i>

### 3.1.3 蔵文 o#をめぐって

ほとんどのカムチベット語では、蔵文の開音節語に対応するものについて、蔵文 i#, u# についてそれぞれ /i, u/ ではなく /ə, ʊ/ に対応する。中にはさらに o# について /u/ や /ɤ/ に対応する方言もあるが、迪慶州瀾滄江流域のチベット語ではどうなっているか以下に例をあげる。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
齒	ʰsʰɤ	ʰsʰu	ʰsʰu	ʰsʰwo	ʰsʰwo	<i>so</i>
年	ʰɤ	ʰju	ʰju	ʰlo	ʰlo	<i>lo</i>
娘	ʰpɯ mɤ	ʰpo mo	ʰpō	ʰpɯ mo	ʰpɯ mɤ	<i>bu mo</i>

nJol 方言では蔵文 o# に対して /ɤ/ が対応することが明確に確認できる。Yungling 方言と Yanmen 方言では蔵文 o# に対して /u/ が対応する一方、Budy 方言では /o/, /wo/, /ɤ/ など多様な対応関係がある。

### 3.1.4 古蔵文に対応する口語形式

迪慶州のチベット語の中には古蔵文に対応する口語形式をもつものがあることが知られているが、以下にその言及に当てはまる例を掲げる。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文	古蔵文
目	ʰŋiʔ	ʰŋi:	ʰŋi: tsə	ʰŋiʔ	ʰŋi: tsʰə	<i>mig</i>	<i>dmyig</i>
火	ʰŋi	ʰŋiʔ	ʰŋi	ʰŋe / ʰŋe	ʰŋiʔ	<i>me</i>	<i>smye</i>
～でない	ʰŋi	ʰŋi	ʰŋi	ʰŋi	ʰŋi	<i>mi</i>	<i>myi</i>
ない	ʰŋeʔ	ʰŋeʔ	ʰŋeʔ	ʰŋeʔ	ʰŋeʔ	<i>med</i>	<i>myed</i>

以上に掲げた語形式は、いずれの方言においても古蔵文との関連が見出される。

### 3.1.5 その他の諸特徴

蔵文で2音節で構成される語が、口語形式で1音節に縮約する形式が現れる。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
太陽	ʼŋi ma	ʼŋa:	ʼŋi wā	ʼŋə ma	ʼŋə ma	<i>nyi ma</i>
卵	ʰgō ŋa	ʰgo wā	ʰgwā	ʰgo wā	ʰgwā	<i>sgo nga</i>
娘	ʰpu mɿ	ʰpo mo	ʰpō	ʰpu mo	ʰpu mɿ	<i>bu mo</i>

このような例は、蔵文の第2音節が特定の音節 *mo*、*ma*、*nga* などであるものが多い。蔵文 *wa zur* が/w/として実現される方言がある。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
帽子	ʰsu wa	ʰsu wa	ʰsə wa	ʰcwa	ʰswa:	<i>zhwa</i>
草	ʰda ra	ʰso wa	ʰtsu wa	ʰtswa	ʰtswa	<i>rtswa</i>

以上の方言群のうち、Budy 方言は2種とも明らかに1音節として実現され、蔵文と完全に対応関係が見られる。他の方言でも2音節になっているが、2音節めは蔵文 *wa zur* の対応音と考えられるかもしれない。

蔵文 *s/ts* が特殊な対応を見せる方言がある。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
土	ʰsʰa	ʰtsʰa	ʰsʰa	ʰsʰa	ʰsʰa	<i>sa</i>
草	ʰda ra	ʰso wa	ʰtsu wa	ʰtswa	ʰtswa	<i>rtswa</i>
煮る	ʰtsɿ	ʰsuʔ	—	ʰtsa: / ʰtsʰəʔ	ʰtsoʔ	<i>btso / 'tshod</i>

Yungling 方言について、蔵文#s-に/tsʰ/、蔵文 C-ts-にʰs/が対応する点で他と大きく異なっていることが分かる。

### 3.2 語彙形式

迪慶州瀾滄江流域のチベット語において蔵文と対応関係をまったく持たない、もしくは完全な対応関係を得られない特徴的な語彙形式について、具体例を挙げて示す。ただし明らかな漢語からの借用語は除く。以下に数例を挙げ、その後各形式について説明を加える。

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
風	ʰjō pje	ʰlō:	ʰjō ma	ʰlo ma	ʰlo ma	<i>rlung</i>
虹	ʰza: ɕje	ʰdza	ʰza	ʰza	ʰzə tɕʰu	<i>'ja'</i>
氷	ʰtɕowʔ	ʰqoʔ	ʰdzaʔ	ʰtoʔ	ʰɕoʔ	<i>chab brong</i>
橋	ʰdzā mba	ʰbu lā	ʰdō zā	ʰdū zə	ʰdō ʰdzā	<i>zam pa</i>
2	ʰŋə	ʰŋə	ʰmə	ʰŋi:	ʰŋi:	<i>gnyis</i>
12	ʰtɕo: ŋə	ʰtɕo: ʰŋə	ʰtɕu: mə	ʰtɕo: mə	ʰtɕo: ʰŋə	<i>bcu gnyis</i>

語義	nJ	Yu	Ya	BuJ	BuL	蔵文
誰	ˈsʰu	ˈʧʰu	ˈko:	ˈkwō	ˈkwɔ:	<i>su / gang</i>
人	ˈmə	ˈnə	ˈmō	ˈmə	ˈnə	<i>mi</i>
子ぶた	ˈpʰaʔ lu	ˈpa la	?	ˈpʰaʔ reʔ	ˈpʰje li	<i>phag phrug</i>
犬	ˈtsʰə	ˈtsʰə / ˈʧʰə	ˈtsʰə	ˈtsʰə	ˈtsʰə	<i>khyi</i>
猫	ˈli la	ˈlu lu	ˈna mje	ˈna me	ˈna me	<i>byi la</i>
青稞	ˈka ru	ˈka ru	ˈka	ˈsʰo wa	ˈkə ru	<i>nas</i>
唐辛子	ˈpo guʔ	ˈbə gu	ˈʧu gu	ˈʰbu gu	ˈʰbu gu	<i>si pan</i>
葉	ˈne ma	ˈnə ma	ˈwlu	ˈnɣ ma	ˈnɣ ma	<i>lo ma</i>
今	ˈʔa la	ˈʔa ru	ˈʔa sō	ˈʔa sʰō	ˈʔa da / ˈʔa sʰō	<i>da lta</i>
とうもろこし	ˈta mɔ:	ˈta mō	ˈta mo	ˈʰta ʰmo	ˈʰta mbo	<i>ma rmos</i>
鴨	ˈʔa wā	?	ˈʔä	ˈʔä	ˈʔä	<i>ngang ba</i>

以上に示したそれぞれの形態について、説明できる点を述べる。

「風」は2音節形式の2音節めは来源が不明である。Budy 方言は2方言とも第1音節が鼻母音になっていない点で蔵文と異なりがある。

「虹」は Yungling 方言を除いて、蔵文と関連のない形式を用いている。

「氷」は各種方言とも差異が激しく、いずれの形式もよく分からない。

「橋」は Yungling 方言を除いて、蔵文の *zam* もしくはチベット・ビルマ祖語形式と関連が見られる音節が含まれている。

「2」は Yanmen 方言が両唇鼻音を含む特別の形式を用いているが、ただしこれは怒蘇語の  $m^{55}$  「2」と対応すると考えられる。「12」では Yanmen 方言のほかに、さらに Budy (結義) 方言でも両唇鼻音を含む形式を用いている。

「誰」は Yungling 方言の形式が特殊と考えられる。

「人」は nJol 方言の高声調形式や Budy (羅通) 方言の形式は蔵文と対応しないものである。

「子ぶた」は語形成上は全ての方言で似ているが、Yungling 方言では「ぶた」の要素を表すであろう第1音節が無気音であることに特徴づけられる。

「犬」は、蔵文 Ky が歯茎破擦音に対応する Chaphreng (郷城：香格里拉県の北に接する地域) 方言などの存在を考慮すると蔵文と対応すると考えられなくもないが、瀾滄江流域の方言での一般的な対応関係ではない。

「猫」は蔵文と対応しない形式が用いられているが、nJol 方言などの形式は他地域のチベット語方言に見られる一方、Yanmen 方言などの形式はそうではなく、独龍語の  $na^{31}me^{55}$  「猫」と酷似している。

「青稞 (裸麦の一種)」は、方言の形式に近似のものとして、江荻 (2002:253) が言及している *krungs* 「青稞の穂」という古蔵文の形式があるが、関連が存在するかどうかは確証がない。

「唐辛子」は各方言の形式全てが来源不明であるが、rDzayul (察隅：徳欽県の西方に位置する地域) 方言では「胡椒」の意の形式と共通する。

「葉」「今」「とうもろこし」「鴨」もまた各方言の形式全てが来源不明である。



## 4 類型的観点からの考察

これまでに見てきた特徴について、迪慶州瀾滄江流域の各種方言間での共通性と異なりをまとめ、類型的観点からの考察を加える。さらにこれらの方言群の系統についても考察する。

### 4.1 蔵文対応形式

蔵文 l 対応音が /j/ となるのは、Budy 方言を除く各方言に見られるが、どの語に見られるかは共通ではない。同様に、蔵文 y 対応音が /z/ となるのも Budy 方言を除く各方言に見られるが、どの語に見られるかは共通ではない。蔵文 l, y がそれぞれ /l/, /j/ に対応しない事例は、チベット語方言の中でも特殊な部類に分類することができると判断する。この観点から言えば、瀾滄江流域の各種方言では、最南端に位置する地域で話される Budy 方言がそれ以外の方言から系統的にはやや離れた位置にあると考えることができる。

しかし実際問題、蔵文 l, y がそれぞれ /j/, /z/ となる音変化の過程は未だ判明していないため、本来的に方言の系統的差異が推し量られるには十分な根拠とは見なしがたい。さて、これら特殊に見える蔵文との対応関係は、特に蔵文 l 対応音が /j/ となる事例については、迪慶州の周辺地域で話される方言にも存在し、北接する郷城県、得榮県の各種方言にも見られる(鈴木 2007b)。ただしこれらの方言での蔵文 y 対応音は /z/ が基本的であり、調音点に差異を確認できる。これと関連して、蔵文 l 対応音が /j/ となる郷城県などに分布する方言において蔵文 zl 対応音では /l/ が維持されることが多いが、瀾滄江流域の各種方言の中にはこの対応音にも /j/ が現れる例があるのは、注目に値する。

以上に述べた点で瀾滄江流域の各種方言には差異があるが、それ以外の方言を特徴づける蔵文対応音の類型的性質はよく似ている。蔵文 Ky 対応音について前部硬口蓋摩擦音、蔵文 Py 対応音について前部硬口蓋摩擦音、蔵文 Kr 対, Pr 対応音についてそり舌破擦/閉鎖音、蔵文 zh/sh 対応音についてそり舌摩擦音となるのは、ほぼ全ての方言に共通して確認される。

### 4.2 語彙形式

先述の語彙形式には、瀾滄江流域の各種方言で共通の特殊形式を持つ例と、特定の方言に特別な形式が現れるものの2種に大別できる。先に見た例では、前者の例に「犬」「とうもろこし」「鴨」、後者の例に「2」「猫」「今」などが挙げられる。後者については、Yungling 方言と Yanmen 方言の間を境に語形式が異なる例が複数指摘できる(「虹」「橋」「猫」「今」など)。このような差異は、方言形成を分析するに当たって極めて重要な要素であると考えられるが、実際具体的な説明が与えられる段階ではない。

また現段階では1つの方言にのみ特徴的な語形式が見られる場合(Yungling 方言「橋」「誰」、Yanmen 方言「葉」「唐辛子」など)もあり、その来歴についても考える必要がある。

## 5 まとめ

迪慶州瀾滄江流域の諸方言は、藏文対応形式を見る限り、かなりの点で近い関係にあると言えるが、Budy 方言は藏文 *l/y* の対応形式をめぐって他の方言と異なっている点が際立つ。語形式をみるとさらに下位方言でいくつかのまとまりが見られることが分かった。方言間の歴史的関係とそれらの発展については、さらに詳しい方言の諸相を考察する必要がある。

### 参考文献

Hongladarom, Krisadawan (1996) Rgyalthang Tibetan of Yunnan: a Preliminary Report, in : *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* Vol. 19.2/Fall, 69-92

江荻 [Jiang, Di] (2002) 《藏語語音史研究》民族出版社

陸紹尊 [Lu, Shaozun] (1990) 〈藏語中甸話的語音特點〉《語言研究》第2期 147-159

—— (1992) 〈雲南藏語語音和語匯簡介〉《藏學研究論叢 第4輯》120-131 西藏人民出版社

瞿靄堂 [Qu, Aitang]・金效靜 [Jin, Xiaojing] (1981) 〈藏語方言的研究方法〉《西南民族學院學報》第3期 76-84

蘇郎甲楚 [bSod-nams rGya-mtsho] (2007) 〈再論中甸藏語方言〉《蘇郎甲楚藏學文集》130-142 雲南民族出版社

鈴木博之 (2006) 《九香線上的藏語方言對比研究》第4屆兩岸三地藏緬語族語言學學術專題討論會發表論文

—— (2007a) 『川西民族走廊・チベット語方言研究』京都大学博士論文

—— (2007b) 「甘孜州郷城県カムチベット語の方言特徴」『ニダバ』第36号 17-26

王恒傑 [Wang, Hengjie] (1993) 《迪慶藏族社會史》中国藏學出版社

Wang, Xiaosong (1996) Prolegomenon to Rgyalthang Tibetan Phonology, in : *Linguistics of the Tibeto-Burman Area* Vol. 19.2/Fall, 55-67

《雲南省誌》編纂委員會 [Yunnan Shengzhi Bianzuan Weiyuanhui] (1998) 《雲南省誌 59 少数民族語音文字誌》雲南民族出版社

雲南省中甸県地方誌編纂委員會 [Yunnansheng Zhongdianxian Difangzhi Bianzuan Weiyuanhui] 編 (1997) 《中甸県誌》雲南民族出版社

張濟川 [Zhang, Jichuan] (1993) 〈藏語方言分類管見〉戴慶廈等編《民族語文論文集—慶祝馬學良先生八十寿辰文集》297-309 中央民族學院出版社

#### [付記]

筆者による現地調査については、平成 16-19 年度科学研究費補助金基盤研究 (S) 「チベット文化圏における言語基層の解明」(研究代表者: 長野泰彦、課題番号 16102001) および平成 19 年度科学研究費補助金特別研究員奨励費の援助を受けている。

なお、現地調査に当たっては昆明市の瑪吉阿米・香格里拉藏族風情宮の関係各位の協力を得た。ここに記して感謝の意を述べる。